

第10回ESD連続セミナー概要報告

奈良教育大学 大西 浩明

◇実施日時	2024年1月16日（火）19時～21時
◇方法	ZOOMによるオンライン開催
◇参加者数	34名
◇内容	学習指導案の相互検討③

【ルーム1】ファシリテーター：大西浩明（奈良教育大学）

1）土屋岳先生（山形県立高畠高等学校）

高校2年 公共「政治参加と公正な世論形成」

主権者としての意識を高めたい

全体の前で発言することが苦手な生徒が多い

政治や選挙に関心がないというより、「自分たちが関わっていいものではない」という認識

自分たちの町をよりよくするために 高校生でも政治に参加できることを理解させたい

最終的には高畠町への政策提案をさせる

意見交流から

- ・高校生で世論形成について学んだことはないが、今では必要なことだと思う。
- ・初めに「自分たちでもできるんだ」と感じられるものがあればいい。何かモデルを示したい。
- ・一人ではできないことも、みんなでやればできるということを実感させたい。
- ・「選挙あるある」のクイズは面白そう。
- ・町の課題については理解しているようなので、
- ・町の総合計画を見て、自分たちの感じている課題と擦り合わせると、より身近に考えられる。そこに役場の担当者にGTで来てもらって説明してもらったらどうだろうか。

2）大西遥郁さん（教育学専修3回生）

小学校5年 総合的な学習の時間「外来種と私たち」

昔よく飼われていたアメリカザリガニ、アライグマ、ミドリガメが野生化している問題について知る
環境省の動画「STOP アメリカザリガニ」「日本の外来種対策」を視聴

興福寺猿沢池の放生会で金魚を放流していたのをやめた事例（何百年も続いていたのに）

外来種はすべて退治しないといけないのか？ 外来種の命も大切なのでは？ ディベート

賛成・反対ではなく、その理由を考え交流することで外来種への関心が持てればいい

「人間も生き物も住みやすい場所をつくるためにわたしたちにできることは？」

最後に「おいしい！ 食べて活用！アメリカザリガニ」の動画視聴

意見交流から

- ・外来種の命も大切なのではないかという視点は大事。どのように折り合いをつけるか？
- ・トレードオフの問題と一っしょだと感じた。
- ・外からきたものをただ排除すればいいという考えにならないようにするところがいい。
- ・ディベートさせるにはそれまでの学習の積み上げが大事なると思う。
- ・放生会の事例は導入に入れる方が、課題意識が生まれると思う。

- ・アメリカザリガニは食べられるのかもしれないが、食べられるかな。
- ・ディベートが最後の方がいいかもしれない。

3) 志原那歩さん（特別支援教育専修3回生）

中学校1年 総合的な学習の時間「滝宮念仏踊りのこれから」

「風流踊り」としてユネスコ無形文化遺産に登録された ポスター「この躍動！ 世界基準」
踊りのある8月のこの日は多くの人が集まってくる
踊り組に参加している人、主催者にインタビュー 訪れている人にインタビュー
踊り組には小中学生もいるが、見に来る人は大人がほとんど 継承者不足
地域（綾川町）のよさや素敵などところを見つけさせたい 他地域との比較
「住まいるあやがわフォトコンテスト」を参考に
念仏踊りの継承やこれからの綾川町について考えをまとめ、発信

意見交流から

- ・まず見に行く、参加する人を増やすことを目標にするというのでは。
- ・子どもの参加が少ないのは、毎年見るべきものとは感じていないのでは。
大人の人はなぜ毎年見に行くのかをインタビューしてみてもどうだろうか。
- ・この踊り以外に地元の誇れるものは？ より多くの人に綾川町のよさを発信させたい。
→ 棚田、讃岐うどん発祥の地
- ・「この躍動！ 世界基準」を導入にすれば、何が世界基準なのかという課題意識が生まれるのでは。
- ・それぞれが見つけた地域のよさを調べ写真にとって、フォトコンテストに応募することをゴールに。

【ルーム2】ファシリテーター：中澤静男（奈良教育大学）

1)：谷垣徹先生（奈良県立青翔中学校・高等学校）

中学校1年 総合的な学習の時間「私たちの暮らしと水」

毎年の春の校外学習が形骸化している。学びがいのある内容に充実させたい。
サイエンス系の探究学習として単元開発をしたい。
吉野川分水ができるまでの奈良盆地の農業の課題：水不足
吉野川分水ができて、安心して米作りができるようになった。
奈良県の「ひのひかり」：おいしいお米 おいしいお米はおいしい水から
森の水の源流館の見学

- ①源流の森 美しい水がつくられる森は、多様な生き物のすみかでもあった。
- ②川上宣言と出会う：川上村の人たちの水に対する行動
中流域に住む自分たちは、川のために何か行動しているのか？
- ③自分の住んでいるところの環境測定を行う（ならコープと連携）
サイエンス系として科学データに基づいた取組としたい
- ④秋の校外学習 大阪市長居の自然史博物館（下流域としての位置づけ）
学芸員からの講義を受ける
- ⑤システムズ・シンキング 川の環境が上流・中流・下流とつながっている。
- ⑤青翔宣言の作成

意見交流から

中流域に住む自分たちが、川の水質保全のために何も行動していないことに気づかせ、大人を巻き込んだ行動化につなげてほしい。

2) 井上岳海さん（学校教育マネジメントコース ESD マネジメント領域）

中学校1年 総合的な学習の時間「古代のタイムカプセルから未来を創れ」

埋蔵文化財を ESD の教材にしてみたい。認知考古学の援用。

- ①地域にある埋蔵文化財を知る。
- ②地域の文化財が自分たちにどのような影響を与えているか、守られてきたのかを考える。
- ③博物館等で古代の道具を調べる 朝鮮半島との交流があることに気づかせる
- ④古代の人が気候に即した暮らしをしていたことを、学芸員に教わる
縄文時代の大きな気候変動
- ⑤古代人の知恵から持続可能な社会の手がかりを見つける
- ⑥持続可能な社会づくりのためにできることを宣言する。

意見交流から

- ・埋蔵文化財は生徒にとって身近ではないので、実物ふれたり実際に使ったりできる方がいい
- ・埋蔵文化財は「守ってきた」と言えるのだろうか？その価値を伝え、これからの保全方法を考える方がよいのではないか。 → 公園化・資料館化・放置
- ・認知考古学の援用について：古代人も我々も同じホモサピエンスである。感性的には同じである。
- ・大陸との交流による先進文化の受容：言葉が通じない中でも、受け入れたかった。
大陸由来の土器・土器の破片：古代人の大切にしていたものに違いない
- ・地域に根差した宣言の方がいいのではないかな。

3) 苗代昇妥さん（英語教育専修3回生）

中学校3年 総合的な学習の時間「私の考える みんなが住みやすい街 東大阪市」

グローバル化の進展により、町工場の多い東大阪市には技能実習生という形で外国人が多く住んでおられる。人種差別やヘイトスピーチを乗り越え、外国人と共生できる社会の実現は喫緊の課題である。様々な国籍の人たちにとって住みよい東大阪市をつくっていききたい。

単元展開の概要

- ①英語科でアメリカの公民権運動について学ぶ。Black lives matter の訳語を調べる。
- ②大阪府ヘイトスピーチ解消推進条例を取り上げ、日本での人種差別問題を知る。
- ③日本に住む外国人にインタビューする。「住みやすい街に必要なことは何か？」
- ④みんなが暮らしやすい東大阪市について考え、行動化する。

意見交流から

- ・日本に住む外国人に、日本に来て困ったことやうれしかったことをインタビューし、まとめることは現状把握するだけでなく、生徒が外国人の方々に積極的にかかわっていかうとするきっかけにもなっている。
- ・人権学習ではナイーブになりがち。最初で出会い方が重要。苦勞されていることにフォーカスしがちだが、前向きに生きておられる方にその理由を尋ねるなど、プラスの出会い方を考えてほしい。
- ・生徒の行動変容をある程度想定した方がいい。次の一手を準備するためにも。

【ルーム3】ファシリテーター：河野晋也（大分大学）

1) 長嶺有希さん（教育学専修3回生）

中学校2年 総合的な学習の時間「スーパーで何を選ぶ？ -安定した生産・消費のために-

食料自給率の問題に目を向けさせ、持続可能な食生活のために自分たちにできることを考えさせる学習を構想した。参加者からは、小学校の第5学年で扱う食料自給率の学習を踏まえて、どのように中学校での学習を設計していくかについて、意見が交わされた。また考えたレシピをもとに実際に調理をして、文化祭で販売するという取組が、他者からの評価を得られるよい機会になるとの意見が出された。今回の指導案は、食料自給率と消費行動に着目して設計したものであるが、食生活に関わる持続可能性は食料自給率以外の問題を含めたものであるし、また材料の購入、レシピの考案、販売宣伝までを含めた一連の取組として構想することもできる実践であるとの意見が出された。

2) 森岡美咲先生（奈良市立三碓小学校）

小学校4年 総合的な学習の時間「わたしたちの町の生物を守ろう」

かつて富雄川に住んでいたニッポン・バラタナゴを題材とした授業を構想した。生き物観察や水質調査の体験活動をしたり、近畿大学と連携したりして、なぜニッポン・バラタナゴが住めない川になってしまったのか考えさせようとした実践である。ニッポン・バラタナゴが住める川にしていくための方法を考えさせる学習では、小学生の発想として「ごみを捨てない」という意見が多く出ることが予想されるが、関係する生き物を含めた生態系を創っていくことが必要であり、それをどのように子どもたちに理解させていくのかが大きなポイントになると思われる。

3) 吉田悠亮さん（奈良教育大学教職大学院 教育情報化マネジメント領域）

高校2年 数学科・総合的な探究の時間 「おいしいお茶の淹れ方」

奈良県の名産品である大和茶を題材として、収穫体験や試飲体験などを通して、大和茶の魅力に気付かせ、校内外でその魅力を広める活動を構想した。指数関数を取り入れるということについて、数学が生活の中に入っているという点についておもしろさを感じる。一方で、小学校の4年生で実施する大和茶の学習をどう生かすか、高校生らしい探究としていく上でどのような学習(特に行動化)が必要か、という点が考えどころであると思われる。

【ルーム4】ファシリテーター：加藤久雄（奈良教育大学）

1) 山平楓さん（社会科教育専修3回生）

中学校2年 社会科（地理的分野）「自然災害からわたしたちの暮らしを守るには」

意見交流から

- ・GT…右京区役所の方を招く（ハザードマップを作っている人）
- ・渡月橋の嵐山周辺は、平成25年の台風で被災している。過去にも被災した地域で実践予定。
- ・ポスターの発信先を高齢者に限定したのは何故？
町内会が機能していない。生徒がその点に貢献。能登の地震でも高齢者の避難に難があることが分かった。
- ・実践者としてのこだわりは？
→自分たちの住む地域に特化した実践が可能となる。責任を実感させたい。
- ・社会科の地理的分野としての学びは？ 地図の読み取り方や、地域調査の手法を学ばせたい。

- ・ハザードマップは、読む人の世代によって見え方が変わるのでは？
年齢別のハザードマップは作れない？
- ・クリティカルシンキングを働かせるきっかけになるかもしれない。

2) 澤村舞花先生（菊池市立泗水小学校）

小学校1年 生活科「たのしいあきいっぱい」

意見交流から

- ・国語の学習（説明文）とも関連づける。「見立てる」
- ・どんぐりを使ったおもちゃを作る子が多くいた。
- ・幼稚園児を招くことで目的意識がもてる。成功させられたら達成感も味わえるだろう。
- ・子供たちの感性や気付きを高められるような授業実践になっている。
中学校の授業にも取り入れたい部分。
- ・2年生にどのようにレベルアップする？
→1年生は季節のもの。2年生はより科学的なおもちゃを作る。
3年生から始まる理科の学習に接続する。
- ・感じる力（五感を通じて） 体験と表現の一体化→気付きの質を高める。

3) 栗山泰幸先生（奈良教育大学教職大学院 教職開発専攻）

中学校2年 社会科（歴史的分野）「近現代の日本と世界-開国と近代日本の歩み

-『明治新政府の成立と立憲国家についてプレゼン授業しよう』

意見交流から

- ・自身の教育観を反映させた授業実践を構想している。
- ・プレゼンに向かう児童の動機はあるのか？
学習内容のまとめ以上に、学んだことへの感想や心の中を表現していく場として位置付けたい。
- ・つぶやきを拾う。思いを素直に表現し合える雰囲気作り。認め合える学級の雰囲気を作りたい。
- ・ノートには考えを書くが、表現できない子。（正解を求めすぎる生徒の姿、社会の雰囲気）
- ・生徒指導の機能を生かした、教科の授業づくりを行いたい。
→その際、ESDの視点を取り入れると有効に働くだろうと考えている。
- ・Google クラスルームのレポート（まとメモリー）で学びの蓄積をしてきた。
成績向上のための自分専用の学びではなく。みんなで学びを共有する。

【ルーム5】ファシリテーター：圓山裕史（奈良市立伏見小学校）

1) 中嶋千智さん（家庭科教育専修3回生）

小学校6年 総合的な学習の時間「継承したいわたしたちのまち」

現在スクールサポートにも言っている佐保川小学校を想定。

JR 奈良駅旧駅舎を題材に。

解体決定から地域の保存の声→人々の思いと行動が社会の変化を起こした事例に触れ、その良さや背景を知ろうとし、受け継いでいく気持ちを持たせたい。

意見交流から

- ・2004年頃のこと、車輪に乗せて移動していたような映像を見た記憶がある。普段しないこととして

- 印象に残っている出来事である。そういった奈良にとって大きな出来事を題材にしている点が良い。
- ・旧駅舎の構造や「大和モダン建築」なども旧駅舎の魅力として注目してはどうか。奈良ホテルや菊水楼もこの建築様式に当たるようだ。
 - ・当たり前にあるものが当たり前でないという視点は、ESD において重要視したい視点なので大事にしてほしい。
 - ・身の周りから考えると時の具体案としてどんなものを想定しているか？
→お地蔵さん、平城宮跡、佐保川の桜並木、大佛鐵道記念公園など
 - ・大西先生が以前、社会科の実践で素晴らしい取り組みをしていたので、資料を見せてもらうなどして、人々の思いを感じるためにはどういった人と出会うのがいいのか、どんな話が聞けるといいのかなど教材研究をもっとして、指導者側がイメージをもって指導観などに反映する必要があるのではないかと。佐保川の桜についても、大西先生の素晴らしい実線があるので教えてもらうといい。

2) 上部遥加さん（家庭科教育専修3回生）

小学校5年 総合的な学習の時間「私たちの海のアマモを守ろう」

地元である三重県伊勢市の小学校を想定。

身近な海、アマモ、藻場を題材にして、三重県水産研究所とも協力したい。

社会科で出てきた藻場への興味を持っていたことから、「海のゆりかご」と呼ばれるアマモについて学習していく。水産研究所とも協力しながら、学校でアマモを育てられるか、その生育にはどんな条件が必要かなど理科とも関連付けながら学習をすすめる。

学習の最後には、海岸清掃など自分たちにできることを考え、行動化につなげていきたい。

意見交流から

- ・アマモを育てることで海の環境を整える。そうした活動の指標として生き物調査がいいのではないかと。児童も積極的に活動するであろうし、水産研究所との協力があれば難しくなさそうである。
- ・歴史的な地域として調べていくことも面白いのではないかと。アマモを刈り取る神事もあるようであるし、そういった視点からも海とともに生活してきた二見だからこそ、どのように海を守ってきたのか、この地域に住む自分たちはどうあるべきかといった価値観の変容がみられそうである。
- ・「海のゆりかご」といった生物視点だけでなく、赤潮を防ぐような役割もあって「ブルーカーボン」と呼ばれるように環境面でも大事にされてきているのではないかと。
- ・アマモを育てる環境にはどんなものがあるか。
→理科「植物の成長」との関連で日光や気温・水温といった環境を比較しながらできたらと考えている。
- ・アマモの神事を導入にしてはどうか。知っている児童がいるかもしれないし、知らなければなおさら、海岸に落ちているあの海藻って二見にとって重要なものだったのだと感じられるかもしれない。
- ・児童からアマモについて、「調べたい」と主体的に学習が進んでいく中で、「どんなふうに育つのか」「どんな役割があるのか」など、詳しい人に聞いてみたい、育ててみたい、こんな活動がしたいと学習がすすんでいたり、広がっていきなりするととてもいい活動になりそうである。